

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成20年5月8日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 医学研究科

職 名・学 年 大学院博士課程4年

氏 名 小 林 恭

事業区分	平成20年度・国際研究集会派遣助成	
研究集会名	2008年American Association for Cancer Research年次総会	
発表題目	前立腺癌細胞におけるprotein kinase C のアンドロゲン依存性制御とアンドロゲン非依存性獲得における役割	
開催場所	米国カリフォルニア州サンディエゴ	
渡航期間	平成20年4月12日 ~ 平成20年 4月16日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()	
会計報告	交付を受けた助成金額	150,000 円
	使用した助成金額	150,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助成金の使途内訳 (使用旅費の内容)	航空運賃・滞在費 150,000

平成 20 年 4 月 12 日 ~ 平成 20 年 4 月 16 日に米国カリフォルニア州サンディエゴで開催された American Association for Cancer Research の年次総会に出席してきた。

本学会は癌基礎研究に関する学会としては世界最大規模であり、世界各国から 17,000 人以上の研究者が集った。25 の Educational Session、13 の Methods Workshop、13 の Basic Science-Clinical Interface Session、4 つの Professional Advancement Session の他、60 を超える Meet-the-Expert Session および大小のシンポジウムを中心として、さらに 6000 近くの示説発表が 5 日間にわたって発表された。特に Meet-the-Expert Session では世界中の第一線の研究室の主宰者がそれぞれの最新の研究内容を紹介する非常に興味深い講演が多かった。

自身の発表は示説演題であったが、会場は多くの参加者で活気に溢れていた。3 時間の掲示時間中ほぼひっきりなしに参加者からの質問をうけ、研究内容に関するディスカッションに費やされた。

自身の研究対象である前立腺癌を中心に示説・口演発表を聴くことが多かったが、前立腺癌の発癌メカニズムや癌幹細胞と転移に関する演題が多数見られ、本研究分野における上記テーマの重要性は今後ますます大きくなっていくことが予想された。全体として、大変内容の濃い学会で充実した 5 日間を過ごすことができた。このような機会をサポートして下さった京都大学教育研究振興財団に謝意を表します。